

変らぬ約束

ヨシュア記 14:6～15

マタイ 4:4

私たち人間は時間と共に年をとり、体は弱くなっていきます。若いときは勇気があり、積極的でしたが、年をとると、意欲を失う人もいます。それで、若いときを振り向いて、過ぎ去ったときの思い出にふけて、何度も繰り返して過去を語りながら過ごす人もいます。また、ある人は年とともに得た知恵と賢明さをもって若者を助け、導く役割をしますが、自分自身の限界を感じながら何かに挑戦しようとすることに戸惑いを感じるのです。「もう私は年だ。私はもうためだ。若いあなたたちにこれを任す。お願いします。」という言葉が当然のように聞くのです。なぜなら、年とともに体力が弱くなり、自分の限界や弱さを認めるしかないからです。

しかし、私たちは今日読み上げました聖書の箇所から、このような一般的な考えを超えた、信仰に溢れた力強い、ある人の告白を聞くことが出来ます。「カレブ」という名前は「攻撃者」という意味です。その名前が意味するように、カレブという人は前向きで、攻撃とも言えるほど勇気ある人でした。しかし、彼が私たちに力強く示しているのは、そのような人柄ではなく、彼の神様に対する信仰です。それで、この時間を通して、カレブの人間の限界を超えたその勇気の源である信仰について考えてみたいのです。

カレブはユダ部族の人で、カナンを偵察した十二人の一人です。民数記 13 章に詳しく出てあります。

モーセの導きによって、イスラエルの民は奴隷の生活をしていたエジプトから解放され、神様が約束してくださったカナンの地に向かって進みます。待ちに待った約束の地カナンを前にして、指導者モーセは十二部族から一人ずつ代表を選んで、カナンの地がどのようなところか、また、住んでいる人が強いかどうか、数が多いかどうかを調べさせるために送ります。そのとき、ユダ部族からはエフネの子カレブが行くのです。

四十日間、カナンの地を偵察してきた人たちは、モーセとイスラエルの民の前で言います。「私たちはあなたが遣わされた地方に行ってきました。そこは乳と蜜の流れるところでした。しかし、その土地の住民は強く、町という町は城壁に囲まれ、とても大きくて強い民族が住んでいました。」それで、「あの民に向かって上って行くのは不可能です。我々は、自分がいなごのように見えたし、彼らの目にもそう見えたに違いありません」と恐れていました。それを聞いたイスラエルの人たちは声をあげて叫び、夜通し泣きました。そして、モーセに向かってエジプトの国で死ぬほうがこの荒れ野で死ぬよりましだと不平をし始めたのです。そのとき、土地を偵察してきた者のうち、ヨシュアとカレブが言います。「我々が偵察してきた土地は、とても素晴らしいところだった。もし、我々が主の御心に適うなら、主は我々をあの土地に導き入れ、あの乳と蜜に流れる土地を与えてくださるであろう。主に背いてはならない、その住民を恐れてはならない。彼らは我々の餌食に過ぎない。主が我々とともにおられる。彼らを恐れてはならない。」

人間的に見ると、彼らは強くて私たちは弱いかもしれない。彼らと戦って勝つのは不可能かもしれない。しかし、私たちに主がおられる、それで、彼らは私たちの餌食に過ぎないのだと言うのです。

それで、他の偵察した人たちとモーセに向かって不平を言った人たちはすべてカナンの地に入る

前に死んでしまい、その子孫とヨシュアとカレブだけがカナンに入ることが許されました。

民数記 14 章 24 節を見ると、「私の僕カレブは、別の思いをもち、私に従い通したので、私は彼が見てきた土地に連れて行く。」と神様は言われます。神様はカレブが私に従いとおしたと認めておられるのです。そのような彼は神様が約束した地に入り、無事に暮していたようです。

今日、読み上げました聖書の中に出てくるカレブは、もうそのときの若いカレブではありません。85 歳の年寄りになっています。自身も「主は約束どおりわたしを生き永らえさせてくださいました」と言っています。新しい地で戦い続けたカレブは、もう休む年齢になりました。若いときの功労もあるので、今は、もてなしを受けながら楽な生活をしてよいときなのです。

しかし、カレブはモーセの次にイスラエルの指導者になっているヨシュアにこのように言います。「主はモーセを通して、あなたが足を踏み入れた土地は永久にあなたと、あなたの子孫の嗣業の土地になると約束してくださいました。」そう言いながらヘブロンという土地を求めます。

神様がある土地を与えるということは、あるものをそのまま手に渡すということではありません。そこに向かって戦い、自分のものにしなければならないのです。つまり、神様の約束を信じて戦い、勝ち取らなければなりません。カレブが言っているヘブロンには強い民族が住んでいました。体格も大きくて武器も揃えている人たちでした。しかし、カレブは、そこは神様が私にくださった約束の地だということです。それで、このように言います。「どうか主がわたしに約束してくださったあの山地を私にください。あのとき、あなたも聞いたように、そこにはアナク人がおり、城壁のある大きな町々がありますが、主が私と共にいてくださるなら、約束通り、彼らを追い払えます。」わたしは 85 歳の年寄りですが、主と共にいてくださるならば勝つことが出来ます。若いとき、カナンを偵察してきたとき、「主が共におられるなら、彼らは私たちの餌食に過ぎない」と言ったカレブは 85 歳になっても同じことを言っているのです。彼にとって根本的な問題は主が共におられるか、ないかのことでした。状況がどうであれ、勝つか、負けるかは主が共におられるか、おられないかの問題です。

ヘブロンはアブラハムが住んでいたところです。アブラハムは妻サライをそこに葬りました。そこにはアブラハム、イサク、ヤコブなど、イスラエルの信仰の祖先とその妻たちが葬られている場所です。また、タビデが王になったとき、エルサレムが首都になる前に、ヘブロンを中心にして国を治めました。このようにヘブロンはイスラエルにとって信仰的にも政治的にも意味ある重要なところでした。カレブが人間的な欲張りで欲しがっているわけではありません。その意味ある土地をイスラエルのために占領しようとするのです。

しかし、そこは山地であって戦争するには不利な地域です。そして、そこに住んでいるアナク人はとても体格が大きかったそうです。カレブは直接そこに行って偵察をしたこともあるので、その事情をよく知っているはずですが。その上にカレブはもう 85 歳老人です。それなのに、今、その地を自分のものにするために戦いたいということです。この驚くほどの勇気と大胆さはどこからきたのでしょうか。

カレブは神様の約束を信じていました。申命記 1：36 をみると、神様はカレブを指して「彼が足を踏み入れた土地を彼に与え、その子孫のものとする。彼は主に従いとおしたからである」と言われるのです。カレブはその約束を覚えているのです。変ることがない神様の約束、約束を必ず守り、成し遂げて下さる神様を信じているのです。何十年の年月が流れましたが、カレブはその神様の変わらぬ約束を信じているのです。カレブの功労と年にしては一番楽で、よい地を要求することも出来るのです。しかし、カレブは険しいし、強い敵で満ちている地を占領しようとするのです。

このような聖書の話は戦争や暴力を正当化するものにしてはいけません。霊的な解釈が必要です。神様の約束の地は神様が示す使命の地、神の国のために前進しなければならない業を指しているともいえます。神様が導く世界、試練があっても、困難があっても主の約束を信じて進むべき道を行っているのです。聖書には神様の変らぬ約束で満ちています。その約束を信じて、福音伝道のために前進し、挑戦する海老名教会の皆様と私でありたいと願います。約束を信じて使命に生きる人を、主は支え、導いてくださるのです。

カレブは楽に生きていこうとしませんでした。カレブはヨシュアの次の指導者として力がある人でした。何でも必要なら要求することが出来る立場にいました。そして、わざわざ、命が危ない戦場に出る必要はありませんでした。楽な生活だけを好む現代の私たちにカレブのこのような姿勢に多くのことを考えさせられます。息が絶える日まで信仰によって生きる徹底した信仰者の姿を見せています。

カレブは主に従いとおした人でした。彼だって、試練と苦難がなかったはずがありません。40年の荒れ野での生活、7年間のカナン征服の戦いの激動の年月を生きてきました。様々な困難と試練の連続でした。カレブは言います。「ご覧ください。主がモーセにこの約束をなされた以来四十五年、イスラエルがなお荒れ野を旅した間、主は約束通り私を生きながらえさせてくださいました。」これは何を意味することでしょうか。人生の荒れ野、波乱万丈の苦しい旅路、命の危険までさらされる道で、こんなに生き残るよう神様は私を守ってくださいましたという告白です。

そのようなカレブは何よりも神様が共におられることを信じていました。カレブにとって私が弱い、不利な立場にいる、小さい、それは問題ではありませんでした。彼にとって勝敗の決めは、神様が共におられるか、おられないかの問題でした。若いときも、年取ったときも、彼にとって、体の弱さや敵の強さは問題ではありません。主が共におられるなら、かならず勝利するということを確信していたのです。このことが出来るか、出来ないか、私に力があるかないかの問題ではなく、このことが神様の御心に適うことかないかを問うべきです。

ヘブロン地に向かってそれを勝ち取るために挑戦する85歳のカレブのように、形は違いますが、私たちも信仰の戦いが残っているのです。息絶えるその日まで、神様の変らぬ約束を信じて、進み出ていきましょう。

マタイ 4:4 で、イエス様は誘惑するサタンに向かって「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」とおっしゃいました。

私たちは神様のみ言葉、聖書を通して示されている変わらない神様の約束の言葉によって生きる者です。これはカレブだけではなく、私たちにも与えられている祝福です。